



総合事業はもともと無理？

介護最大手、ニチイ学館は経営判断として、要支援1と2のケアプランを作成する福島県内の地域包括支援センターに、「提供中のサービスを打ち切りたい」と申し入れ、岡山県のある市は、「軽度者の介護サービス（総合事業）を市区町村独自で組み立てるのは無理がある」。1月28日の新聞報道からです。

◆総合事業って何？

国は、昨年4月までに、3年間かけて、要支援者向けの訪問型と通所型サービスを、介護保険から切り離し市区町村事業としました。この事業を「総合事業」と言います。目的は、介護費用の抑制と、地方に応じた多様なサービスの提供と言われますが、費用を抑えることが主眼であり、報酬の低いサービスからの介護事業者の撤退は、想定されていました。

住民同士のボランティアで助け合う仕組みも、高齢化、単身化の進む地域の実情では、もともと無理ではないですか。

昨年12月、山陽新聞が「総合事業の賛否」を県内27自治体に聞いています。

賛成は岡山市、津山市、里庄町、久米南町。反対が矢掛町、奈義町、美咲町。他はどちらも言えない。

「総業事業の運営」は円滑と答えたのは岡山市、倉敷市、里庄町、久米南町。苦勞しているは高梁市、瀬戸内市、浅口市、早島町、矢掛町、新庄村、勝央町、美咲町。他はどちらも言えない。

◆岡山市の総合事業の現状

訪問型サービスは、従来型介護予防訪問（678人45%）にたいし、報酬の低い新たな生活支援訪問サービス（830人55%）のほうが、利用者が若干多くなっています。

従来型は、入浴、排せつ、食事の介助と買

い物、掃除、その他の生活全般にわたる支援を提供してきました。あらたな生活支援訪問サービスは、ホームヘルパーや市が定める研修を修了した生活援助員が居宅を訪問し、買い物、掃除、その他の生活全般にわたる支援だけ提供します。

通所型サービスは、従来型（2071人95%）に、生活支援通所サービス（118人5%19事業所）が、歩行能力維持向上運動中心の短時間サービスとして始まりました。

※（）内の数字は12月の利用者数

◆ニチイ学館、岡山市では？

岡山市では、訪問型の生活支援サービス提供は109事業所ですが、ニチイ学館は含まれていません。ニチイ学館は岡山市においては従来型サービスの提供打ち切りの申し入れはないそうです。介護保険サービスと同じものは継続するが、新しい総合事業のサービスは、儲からないから撤退する現実があるのです。自治体の多くが賛成していない「総合事業」は早急な見直しが必要です。

◆要支援者に寄り添っているか？

今までの身体介護と生活援助の訪問サービスで、8割が身体介護の必要がなかったとされ、生活援助のサービス利用者が55%と多くなりました。介護予防の視点からいいことなのか、あるいは本人、家族の状態に寄り添うより、費用抑制を最優先した結果なのか、引き続き実情を調べていこうと思います。

下市このみ事務所からのお知らせ

▼2/2（金） 映画上映会
10:00～ 下市このみ事務所

▼2/21(水)～3/16(金) 2月定例岡山市議会

3/1(木) 10:00～
市民ネットを代表して、下市このみが質問をします。ぜひ傍聴にお越しください。